

(博士前期課程) ロボティクス&デザイン工学研究科【空間デザインコース (旧：建築デザインコース・プロダクトデザインコース)】 アドミッション・ポリシー

研究科・専攻ポリシー

社会に貢献できるデザイナーとして活躍するために必要となる、豊かな人間性を支える総合的な教養をさらに深める。研究活動に留まることなく、集積した専門知識と、デザインの専門技術などを有効活用し、多角的な視点で捉え理解する。分析した結果を問題解決に活かすことで豊かな社会を実現する優れたデザインを創出できる工学的知識と思考を持ったデザイナーを育成する。

<求める人物像>

- ロボティクス&デザイン工学専攻および、空間デザイン分野の教育目標を理解し、その目標の達成に向けて努力できる人物
- 豊かな人間性をそなえ、ロボティクス&デザイン工学専攻が包含する幅広い技術を融合的に活用し、人間にとって価値ある新たなデザインを創出する意欲を持った人物
- コミュニケーションの重要性を認識し、向上心を持って実践的「ものづくり」を行う場で責任ある行動をとれる人物

入学前に学修しておくことが期待される内容

学部で学修した専門科目の知識や技能を確実に身に付けていること。知識をもとにして他者と共働しながら論理的な思考ができること。分野において研究成果をプレゼンテーションできる能力が求められる。また、広く情報を収集し理解するための英語読解能力、当該分野の研究者と意見交換できる英会話能力、研究成果を世界に向けて発信するための英語学術論文作成能力などの基本的な英語力が必要である。さらに、工学倫理（研究者倫理）を修得しておくことが望ましい。

学内進学者入試

選考に関しては、学科試験は課さず、3年次終了時点での成績と面接試問の結果を合わせて総合的に評価する。学科試験を課さないため、大学院入学までに一般入試で課せられる建築およびプロダクト分野の基礎学力試験と専門試験と同レベルの内容を身に付けておく必要がある。また、外国語によるコミュニケーション力を維持・向上させるために、進学後 TOEIC テスト等を継続して受験する他、会話のスキルを磨くことが必要である。

一般入試

学科試験として、空間デザインの基礎学力を有しているか判定する。建築系では、専門試験（建築史、建築計画、都市計画、建築環境工学、建築材料、建築構造、建築力学の7分野から2題）を課す。プロダクト系では、専門試験（プロダクトデザインまたは情報デザインの分野から2題）を課す。なお、専門試験の選択科目は自ら専修する分野や研究内容に近い科目を選ぶことが望ましい。英語に関してはTOEICテストの得点（ただし、TOEICIPテストについてオンラインで受験して得られた結果は受け付けない。）によって能力を判定する。これらの書類（調査書、成績証明書、TOEIC成績）審査と面接試問の結果を合わせて総合的に評価する。専門試験で選択しなかった分野については、大学院入学までに自修し、学部で学んだ広範な知識の定着を図る必要がある。

社会人入試

選考に関しては、学科試験は課さず、書類〔成績証明書、業績書（設計系はポートフォリオ）、出願理由書等〕審査と面接試問の結果を合わせて総合的に評価する。学科試験を課していないので、大学院入学までに建築の基礎学力を自修し、専修予定分野の学部シラバス記載内容を自修しておくことが必要である。また、外国語によるコミュニケーション力を維持・向上させるために、進学後 TOEIC テスト等を継続して受験する他、会話のスキルを磨くことが必要である。

外国人留学生入試

学科試験として「空間デザインの基礎学力試験」を課す。「空間デザインの基礎学力試験」の内容は「一般入試」と同等レベルである。さらに、書類（成績証明書、推薦書他、設計系はポートフォリオ）審査と面接試問の結果を合わせて総合的に評価する。大学院入学までには、学部時に学んだ知識の定着を図りつつ、当該専攻科の専修領域のシラバス記載内容を事前に学修しておくことが必要である。また、日本語文献の読解と日常会話が可能で日本語能力、論理的な文章を作成可能な日本語作文能力が必要である。外国語によるコミュニケーション力を維持・向上させるために、進学後 TOEIC テスト等を継続して受験、会話のスキルを磨くことが必要である。